

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎

熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判一六頁三五万部発行)の第一土曜日の十面と十一面の見開き二頁について肥後医育振興会が執筆・監修を行い、医療・医学並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供しました。

メインの記事として医学医療関連の「元気の処方箋」を八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)、また、周辺の学術記事「熊遊学ツーリズム」を四回(四、七、十、一月)掲載しました。前者は、熊本大学本荘キャンパスの医学系の先生方に、また後者は、主に熊本大学黒髪キャンパスの先生方に担当していただきました。それぞれのテーマを以下に記載しております。

それぞれの頁にコラム欄を設けていますが、「元気の処方箋」の際は「子育て応援クリニック」と「慈愛の心医心伝心」を、また「熊遊学ツーリズム」の際には「四季の風」と「熊本まつり探訪」を掲載いたしました。また、「熊本まつり探訪」は今年度をもって終了といたします。

なお、これらの全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに掲載しており、どなたでも自由に読めるようになっています。

「元気の処方箋」

- 五月 生後二カ月目からの予防接種を
- 六月 甲状腺の病気
- 八月 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)
- 九月 発達障害を理解しよう
- 十一月 五十肩(肩関節周囲炎)と腱板断裂
- 十二月 うつ

- 二月 糖尿病への関心と対策を
- 三月 肺がん
- 「熊遊学ツーリズム」

- 四月 意外に面白い「物性物理学」
- 七月 過去から現代日本が見える「西洋史学」
- 十月 夢いっばいの「薬物動態学」
- 一月 花と昆虫の知恵比べ「受粉の生物学」

「第三回熊本県医療人育成総合会議」の開催

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎

「熊本県医療人育成総合会議」の趣旨は、日本の医療需要がピークを迎えると思われる二〇三〇年に向けて、熊本における医療の能力をいかにして高めていくかを、医療界・医育界をあげて知恵を出し合っていくというものです。それには有能な医療人の育成が欠かせませんが、実はその前に、それを担当する教師陣の能力と熱意をいかにして高めていくべきかという課題が横たわっていると思われまます。第一回目の会議で分かったよう

に、日本における医療専門職の職種は三種にのぼるほどまで機能分化が進んでいます。この現状において、その分化に対応できるような教育システムの整備は進んでいるのだろうか、どう進めていけばよいのだろうかという大きな課題なのだと思われまます。

そこで、昨年度開催の第三回目ではテーマを「医療人育成を担う教育者の質の向上への課題」といたしました。その際、そもそも「教える、学ぶ」ということは学問的にはどうとらえられているのかという基本的な面について教育学の面から学ぶ機会も設けてみました。

実行委員：遠藤文夫(委員長)、上田信之、木原信市、興梠博次、児玉公道、佐藤克之、辻野智二、藤田稔、藤中高子、二塚信、森田敏子、山本哲郎

事務局：赤木寛、宮本和明(熊日)、深松真也(熊日)、山下泰弘(熊日)
日時：平成二十四年十一月十七日(土) 午後一時三十分～五時
場所：熊本大学臨床医学教育研究センター
タ1 奥窪記念ホール

司会：熊本大学大学院生命科学研究所教授 木原信市氏
熊本総合医療リハビリテーション学院院长 寺崎秀則氏
総合討論コメント：熊本保健科学大学長 小野友道氏

講演1 メディカルスタッフ教育を考えるー医師・薬剤師・看護師教育を参考にー
文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐 岩瀬鎮男氏

講演2 学生からみた医学教育の現状
熊本大学医学部医学科五年生 小林 光氏
講演3 メディカルスタッフ教育体制の現状と課題ー教師の確保と質の向上の面からー
九州看護福祉大学長 二塚 信氏
講演4 九州におけるメディカルスタッフ育成教員養成の現状
厚生労働省九州厚生局健康福祉部指導養成課看護教育指導官 山中真弓氏
講演5 平成二十四年度「熊本県看護教員養成講習会」開催の意義
熊本大学大学院生命科学研究所教授 森田敏子氏
講演6 専修学校における教員の教育力向上への取り組み
九州中央リハビリテーション学院院长 児玉公道氏
講演7 専門的力量形成を旨とする教員養成ー理論と実践の統合をめざしてー
熊本大学教育学部教授・附属小学校長 河野順子氏

総合討論(右記講師及び聴講者) 参加人数 約百名
その後、十二月二十二日に熊本日日新聞紙面一頁に亘って講演・協議の内容を報告しました。
また、その報告紙面を「肥後医育振興会」ホームページに掲載し、自由に閲覧できるようにいたしました。